

講座 9	さまざまな「災害」から明日を考える—気候・地震・火山・津波・都市災害と人災 【川崎市市制100周年記念講座】			
	【定員】60名		【受講料】 2年会員6,690円 1年会員7,530円 聴講生10,040円	
	『歴史・文学・人間学』 交流館協力		【時間】 毎回14時00分～15時30分（計6回）	
概要	さまざまな「災害」から明日を考える、気候・地震・火山・津波・都市災害と人災～それぞれ気候・地震・火山・津波・都市災害と人災について考えます。			
回	月/日(曜)	会場	学習内容	講師名(敬称略)
1	4/24(水)	東海道 かわさき宿 交流館	津波の過去の事例とそのプロセスを理解した上で、将来の津波災害を考える	東京大学教授 後藤 和久
2	5/15(水)		海溝域での過去の断層運動を理解した上で、将来の地震災害を考える	東京大学大気海洋研究所准教授 山口 飛鳥
3	6/ 5(水)		天明・天保飢饉を拡大させた人災と、西国の藩が主導した幕末の日本	早稲田大学理工学部特任教授 川幡 穂高
4	6/12(水)		関東の地質特性：日本列島の中での位置付けと災害の心構え	東京大学名誉教授 磯崎 行雄
5	6/19(水)		火山の形成・噴火のプロセスを理解した上で、将来の火山災害を考える	東京大学地震研究所准教授 前野 深
6	6/26(水)		カーボンニュートラルと近未来の気候災害	早稲田大学理工学部特任教授 川幡 穂高